

大学院医薬保健学総合研究科 薬学専攻(博士課程)

定員 4名

● 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー；AP）

本課程では、薬学を中核に据えた医療系学問分野における最先端の知識、医療人としての実践的な研究能力、および高い倫理観と国際的視野の醸成を目的とします。薬学・医学・保健学という三つの医療系学問分野が横断的に連携した本研究科に特有の学際的環境の中で、基礎薬学から医療薬学にわたる幅広い分野での教育を通して、高い専門性を有する薬学教育・薬学研究のリーダー、自然科学の素養と学術的に優れた研究能力を兼ね備えた医療人を養成します。具体的には、臨床現場において指導的役割を果たす薬剤師、医療薬学教育・研究をリードする薬系大学教員、医療・厚生・薬事・環境等の行政担当者、新薬開発や臨床試験等に携わる研究者など、高度に専門的な業務に従事し、その第一線で活躍を目指す人を受け入れます。

入学者選抜の基本方針としては、一定レベル以上の学力（専攻学術および英語）を有し、これまでに行った研究課題に対する理解と熱意、さらに将来、上記の分野で活躍することに強い意欲をもっていることを重視します。選抜は、基礎学力、英語能力、論理的思考力、研究課題の理解力等を総合して判定します。

● 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー；CP）

本課程では、薬学関連科目のみならず薬学と深く関連する最新の医学系学問ならびに専門英語をより幅広く学ぶことを可能とし、先進的薬物療法に資する医療薬科学を統合した教育・研究に資するカリキュラムで構成されています。具体的には、(1)「初期総合カリキュラム」では、薬学と関連する最新の医学系学問をより幅広く学ぶことができ、(2)「フロンティア医学セミナー」として、関連分野のセミナーへの積極的な受講をすすめ、知見修得を奨励している。(3)学会への積極的参加を促し、「学際医学セミナー」では関連学会での発表についても単位認定の対象とし、常に新しい知識を求めて学習に研鑽する習慣を涵養する。(4)「薬学専攻選択科目」においては、薬学系の教員による専攻科目を10種類(20単位)用意し、キャリアパスを考慮した最先端の知識を修得させ、臨床現場での実践的な活動および学術的な知識や研究能力を体系的に修得する。(5)、研究室セミナー・カンファレンスで学習する「研究分野別特論」、学位申請のための論文作成を目的とする「医薬科学特別研究」、並びに学会発表等について実践的な演習を行う「医薬科学特別演習」から構成されており、専門学問領域における最新の研究課題に取り組むことができます。

● 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー；DP）

本課程では、医療人として必要な高度で学際的な講義を実施するとともに、担当教員の指導のもとに最新の医療薬学関連研究に取り組むことにより、高度な専門性と優れた研究能力ならびに国際的視野を有する薬剤師となることを目的としています。それを達成するため、薬学と関連する最新の医学系学問も幅広く学び、さらに、多彩な専攻科目を履修します。「医薬科学特別研究」では、研究成果を記述した学位(博士)論文を作成し、公開口頭発表と討論を行い、さらに研究成果が査読付きの学術誌に公表されることが求められています。全てに合格した学生に、博士(薬学)または博士(学術)が授与されます。

● 想定される就職先

- ・医療関係機関（病院、薬局など）
- ・薬学系・医療系大学（教員）
- ・官公庁の医療・薬系関係部署
- ・企業での研究開発部門（臨床開発研究員など）
- ・企業での営業学術部門（学術研究員など）